

週刊センターニュース No.25



第25号(2004年8月30日)毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

共同学習会のご案内

第35回 日時: 9月1日(水) (13時30分 ~ 15時)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟2階 大会議室

講師: 青野 透(大学教育開発・支援センター)

題目: 「非常勤講師の削減問題について」

趣旨: 全学的に検討中である非常勤講師削減問題について、話題提供者は次のように考えます。<非常勤講師の手当について全学的な経費の支出を求める場合は、各部局は全学に対して、次のような説明責任がある。

その科目開講の必要性 隔年開講等の対応策の検討結果

他部局を含めて学内に適任者がいないことの確認 依頼予定の非常勤講師の適切性(旅費などがあまりかからない近県から適任者を探す努力をした結果であることを含む)。これに加えて、例えば、全学出勤である教養教育については、学部教育担当等が忙しいという理由による担当回避には正当性がない、過去の担当実績を勘案した担当計画を立てるべきである(今年度までの担当実績が少ない教員は来年度に多めに担当)、本学の教養を担当せずに他大学での非常勤を担当しているような例があるとすれば是正すべきである、さらに、「学生による授業アンケート」を実施している非常勤教員や教養教育全学研究会に参加している非常勤教員の場合は担当の適切性について一定の補強証拠となりうる>。これらを中心に議論します。

FD活動に対する各学部と当センターとの連携を検討するため、各学部にFD活動の現状と今後の取組についてご報告いただくよう現在お願いしているところです。まずは以下の通り、薬学部と工学部での取組についてご報告いただくことになりましたので、多数の教職員の皆様に参加していただき、ご意見をいただければと思います。(会場がいつもと違いますのでご注意ください。)

第36回 日時: 9月14日(火) (14時 ~ 15時30分)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟1階 小会議室

講師: 鈴木 永雄 教授(薬学部FD委員会長)

題目: 「薬学部のFDについて」

第37回 日時: 9月14日(火) (16時10分 ~ 17時40分)

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟1階 小会議室

講師: 山田 実 教授(工学部教育方法改善委員会委員長)

題目: 「工学部のFDについて」

2004PCカンファレンス参加報告

8月5日(木)、6日(金)と神戸大学で開催された2004PCカンファレンスに参加した。

PCカンファレンスとは、CIEC(コンピュータ利用教育協議会)と全国大学生生活協同組合連合会が主催するもので、文部科学省、県教育委員会その他団体が後援として参加している研究発表会である(<http://gakkai.ciec.or.jp/event/2004/index.html>)。CIECはCouncil for Improvement of Education

through Computers」の略称で、教育・研究へのコンピュータ利用の在り方と可能性を考える団体であり、1999年9月14日付けで日本学術会議の学術研究団体として登録されている (<http://www.ciec.or.jp>)。2004PCカンファレンスのテーマは「人が生きる道具としてのコンピュータ～ユニバーサル&ユビキタスコンピューティングを目指して～」であった。コンピュータとその教育への利用に関して2日間にわたり、9つの分科会で約130の研究発表が行われた。主に「コンピュータ/ネットワーク利用による異文化環境と外国語教育」という分科会に参加したが、各大学での具体的な取り組みについての報告があり、非常に興味深い内容であった。

また、それらとは別に大学生協企画として「大学によるパソコン必携化への動きと、そのサポートのあり方」というシンポジウムも開催された。まず始めに「キャンパスライフ環境としての無線LAN」というタイトルで、アメリカの大学における状況について報告があった。いくつかの大学での事例紹介において、学内無線LAN環境の整備、e-Learningポータルサイトの整備、大学としての電子教材作成支援体制、周辺地域へのネットワーク接続サービスの提供、保守体制だけでなく持ち運び用のリュックサックや盗難防止器具までもセットになっているノートPC必携化システム、無線LAN対応PDAによる「リアルタイム回答集計システム」などについての説明があった。引き続き、鳥取大学、愛知教育大学、東京学芸大学におけるノートPC必携化システム導入の経緯、必携化PCの詳細、導入時及び導入後のトラブルなどについて事例紹介がなされた。具体的には、毎日大学へ持ってくることを考えるとノートPCの重さは2kg以下、金額的には保守、オフィスソフトやセキュリティソフトを入れても20万円まで、生協等でのメンテナンス対応を考えると全学同一学年単一機種が望ましい、場合によってはメンテナンスは外注化が必要、ノートPC利用者講習会は学生に実費負担して欲しい、学部によっては入学時のスペックでは3、4年時には能力不足になる場合がある、などの報告があった。また、会場の参加者から、「現状のカリキュラムでノートPCが本当に必要な授業は2つくらいしかないので、ノートPCの必携化は本当に必要なのか」との声があがったが、報告者からは、学生が全員ノートPCを持っているならば、教員もそれを積極的に活用した授業が可能であり、単純に単位との関連だけでは判断できないとの回答がなされた。

学内のネットワーク環境、PC環境の整備は、当センターの直接の守備範囲ではないが、情報保障という点からの学内情報の円滑な流通促進、PCを活用した学習支援システム構築については、当センターが関わる部分もあるように思われるため、今回、2004PCカンファレンスで収集した、コンピュータとその教育への利用および大学におけるパソコン必携化の動きについては、これからも情報収集を行って行きたいと考えている。

(文責 堀井)

センター教員活動記録 (8月26日～8月30日分)

2004.8.27 「大学国際化の評価指標策定に関する実証的研究」(科研) 打合せ参加

大阪大学 (堀井 科研費出張)

2004.8.30 GSIC 講演会 2004 (MIT Open Courseware : A New Model for Open Sharing

知識資源共有の新しいモデルとしてのMIT OCW) に参加

東京工業大学 (堀井 公費出張)